

生徒が、つなげて、 まとめる、新たな学びへ



—— 新機能「学びコネクト」・「まとめも」のご紹介 ——

帝国書院 ICT開発推進室

「GIGA2.0」に向けて教科特性を生かしたICT教育の推進が求められています。
そこで、生徒中心の社会科の学びに対応した帝国書院の新しいデジタル教科書・教材と
その活用について、ご紹介します。

キーワード ▶ **学びコネクト** **まとめも** **思考の整理・構造化** **問題発見・解決能力**

Point

1

ワンストップで知識をつなぎ、
課題発見・解決能力の育成へ！



「学びコネクト」で地歴公の学びを横断！

「公民的分野の学習を進めていくなかで、中学校1・2年生で学習した地理的分野や歴史的分野の内容を参照したい」というとき、これまで公民の教科書とは別に、地理や歴史の教科書を開く必要がありました。そうすると、机の上が煩雑になったり、そもそも公民の学習では、地理や歴史の教科書を持ってきていなかったりするため、先生方が資料を自作されたり、該当ページを拡大して提示されたりしていたのではないのでしょうか。

新しい帝国書院のデジタル教科書・教材には、

学習要素ワード（紙面タイトルや重要語句）と紐づいた教科書紙面やデジタルコンテンツを、分野横断的に閲覧できる「学びコネクト」という機能を新規搭載しています。

例えば、地理的分野で「古都京都・奈良と歴史的景観の保全」（令和7年度版『社会科 中学生の地理』p.208～209）について学習する際に、「学びコネクト」アイコンをタップすると、地図帳（令和7年度版『中学校社会科地図』p.109～110）の「①近畿地方の歴史・文化・観光」の地図や主題図、歴史的分野の関連資料を調べることができ、サムネイル画像をタップすると、そのページやコンテンツに飛ぶことができます（図1）。また、景観保全のために、会社や店舗の外観を変えることは、地域社会の貢献という意味で、企業の社会的責任とも捉えることができるため、公民的分野3部1章2節の「企業の社会的責任」（令和7年度版『社会科 中学生の公民』p.142～143）ともつながっています。

このように「学びコネクト」を用いることで、既習事項を振り返るだけでなく、地図・地理的分野・歴史的分野・公民的分野の学習内容がつながっていることを生徒がより理解しやすくなります。また、分野間の知識をつなぐことで、生徒の知識が点にとどまることなく構造化されていきます。

さらに、分野横断的な学びは、社会科における見方・考え方の習得や、複数の資料・図版から適切かつ必要な情報を取捨選択する「情報活用能力」の育成にもつながると考えています。



図1 デジタル教科書・教材（体験版）『社会科 中学生の地理』 p.208～209



図2 デジタル教科書・教材『社会科 中学生の歴史』p.298～299

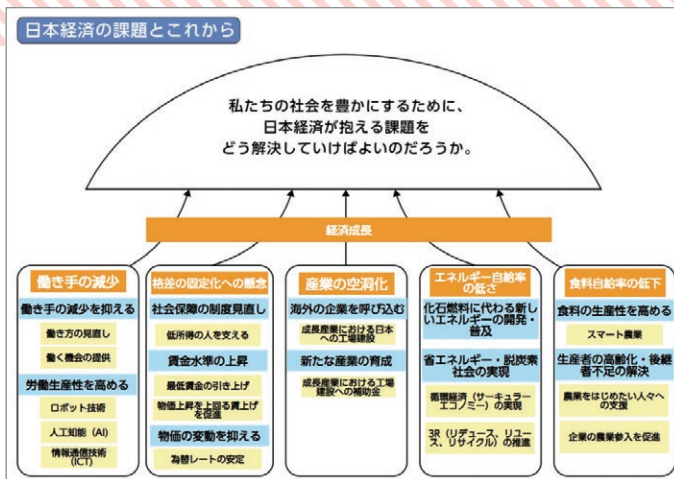


図3 デジタル教科書・教材『社会科 中学生の公民』p.168～180

Point
2

各生徒の思考を整理・構造化し、
対話的な学びを誘う！

「まとめも」で生徒が思考を整理・構造化！

「学びコネクト」はいわばヨコの学び（＝分野間連携）を可能にする機能です。社会科の学習では、学びをつなげて広げるヨコの学びだけでなく、それぞれの学習項目についての学びを深めていくタテの学びも重要です。社会的事実や課題をもとにして作られている学習課題（問い）に正対し、自ら考え思考を整理・構造化していくことは、タテの深い学びにつながると考えています。

そこで、教科書本文や授業から得た知識を収集（カード化）し、生徒自身の思考を整理・構造化できる「まとめも」という機能を新規搭載しました。「まとめも」には3書目共通で10個の定番の思考ツール（ベン図・Yチャート・クラゲチャートなど）と、分野ごとのオリジナル思考ツールを各書目に収録しています。また地図帳では、世界と日本の白地図を全27図収録しています。また、指導書（指導・評価編）には、「まとめも」を用いた「節まとめ案」（歴史は「章まとめ案」も収録）を掲載しています。

「まとめも」では、まず右下の「カード作成」から、カード化したい知識や情報を、紙面をなぞったり、入力したりしてカードを作成します（図2）。

作成したカードを思考ツール上に配置し、それぞれのカードをつなげたり、思考ツールにペンを用いて書き込んだりすることで、生徒一人ひとりの思考を整理・構造化し、各生徒の思考

を共有・協議することで教室全体の思考を整理・構造化することができます。紙では手間がかかる他者意見の参照もワンストップでできます（詳しい使い方は次ページを参照）。図3は、公民的分野3部1章5節の「日本経済の課題とこれから」（p.168～180）における節まとめの例です。

他にも社会参画を意識した問いに対して、まとめ図を作成すると生徒は「〇〇さんはどんなまとめ図をつくったの？」「私はこんなまとめ図をつくったよ！」「あ、そこそこがつながるんだ」「学びコネクトで他の情報を見つけたよ！これも必要なんじゃない？」というように、周囲と対話をしながら自分のまとめ図を再調整していくようになります。「作る」→「他者参照」→「再調整」のサイクルで生徒自身がまとめ図を作ることで、生徒は社会参画を意識した問いに対して自身の問題発見・解決能力を向上させていくことができます。また先生方は、このサイクルを通した学びから生徒の思考の変容を“みとる”ことができます。

さらに、問いに対してまとめ図と文章をセットにして生徒に説明させることで、その生徒の思考のプロセスや理解度を教室全体で共有でき、生徒たちは他者の学びを参照しつつ、より深い学びを実現することが可能になります。評価の視点に立つと、上記のような説明をさせることで、生徒がどのように社会科における見方・考え方を働かせて思考を整理・構造化しているのかをまとめ図から、生徒が知識や情報を整理しているのかを説明する記述ができているかを生徒の答えから、“みとる”ことができます。

具体的な「まとめも」の使い方

普段の授業

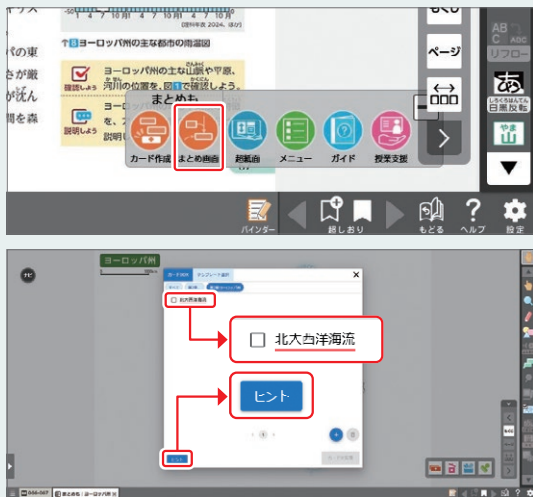
デジタル教科書・教材『社会科 中学生の地理』p.66～67を例に

教科書本文や授業から重要な知識をカード化！

- ① 「カード作成」をタップし、カード化したい知識や情報をなぞる、あるいは、キーボードで入力します。
- ② 「カードBOXに追加」をタップすると、カードBOXに、カードが追加されます。



- ③ カードBOXは、カード作成の右にある「まとめ画面」をタップすると確認できます。



- ④ カードの作成が難しいと感じる場合、カードBOXの左下の「ヒント」をタップすると表示される重要語句リストから、重要語句をカードBOXに追加することができます。

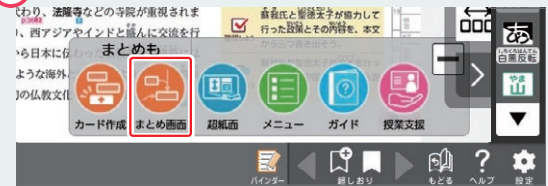


- ⑤ カードはいわば、各授業で得た知識です。カードをカードBOXに追加していくことで、知識が蓄積されていきます。その知識を用いて思考しながら各分野のまとめを作り上げていきます。

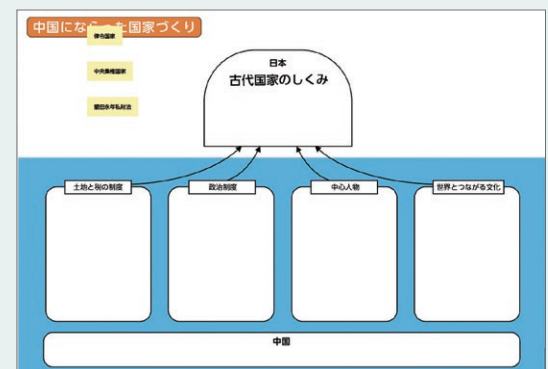
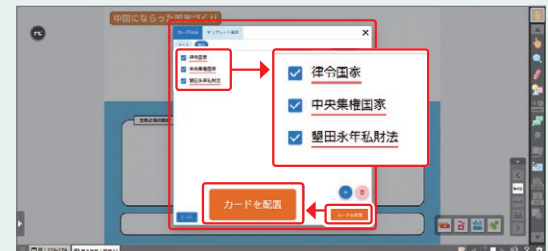
まとめの時間

デジタル教科書・教材『社会科 中学生の歴史』p.36～49を例に

- ① 「まとめ画面」からカードBOXを開きます。



- ② 追加したいカードにチェックを入れて、右下の「カードを配置」をタップすると、カードがオリジナル思考ツール上に配置されます。



- ③ また「まとめ画面」でも右下のオレンジのアイコンから、新しくカードを作成することができます。

- ④ そして、そのカードを配置したい位置に移動させ、矢印などでつなぐことで、下のようなオリジナルまとめ図を作成することができます。

